

「千葉市立病院改革プラン」の進捗状況について

目次

◎【青葉病院】	
1 収支計画	・・・1
2 主要指標	・・・2
3 取組事項	・・・3
◎【海浜病院】	
4 収支計画	・・・5
5 主要指標	・・・6
6 取組事項	・・・7
7 経営形態の見直しについて	・・・9

【青葉病院】

1 収支計画

①収益的収支

(単位:百万円)

区分		21年度			22年度			23年度
		計画	実績	計画比	計画	予算	計画比	計画
収入	1. 医業収益	6,617	6,609	△ 8	6,741	6,849	108	6,890
	(1) 料金収入	5,875	5,852	△ 23	5,999	6,065	66	6,147
	1 入院収益	4,333	4,221	△ 112	4,423	4,458	35	4,536
	2 外来収益	1,542	1,631	89	1,576	1,607	31	1,611
	(2) その他	742	757	15	742	784	42	742
	うち他会計負担金	579	578	△ 1	579	592	13	579
	2. 医業外収益	2,595	2,536	△ 59	2,545	2,464	△ 81	2,412
	(1) 他会計負担金・補助金	2,515	2,438	△ 77	2,461	2,381	△ 80	2,324
	(2) 国(県)補助金	19	13	△ 6	19	17	△ 2	19
	(3) その他	61	85	24	65	66	1	69
経常収益 (A)		9,212	9,145	△ 67	9,286	9,313	27	9,302
支出	1. 医業費用	8,679	8,576	△ 103	8,767	8,815	48	8,796
	(1) 職員給与費	4,000	3,891	△ 109	4,000	4,073	73	4,000
	(2) 材料費	1,542	1,659	117	1,575	1,643	68	1,613
	(3) 経費	2,018	1,914	△ 104	2,168	2,087	△ 81	2,177
	(4) 減価償却費	1,088	1,087	△ 1	995	982	△ 13	976
	(5) その他	30	25	△ 5	29	30	1	30
	2. 医業外費用	518	543	25	504	502	△ 2	491
	(1) 支払利息	419	416	△ 3	404	403	△ 1	391
	(2) その他	99	127	28	100	99	△ 1	100
	経常費用 (B)	9,197	9,119	△ 78	9,271	9,317	46	9,287
経常損益 (A)-(B) (C)		15	26	11	15	△ 4	△ 19	15
特別損益	1. 特別利益 (D)	0	1	1	0	16	16	0
	2. 特別損失 (E)	15	27	12	15	12	△ 3	15
	特別損益 (D)-(E) (F)	△ 15	△ 26	△ 11	△ 15	4	19	△ 15
純損益 (C)+(F)		0	0	0	0	0	0	0
累積欠損金		△ 1,528	△ 1,528	0	△ 1,528	△ 1,528	0	△ 1,528
繰入金合計(再掲)		3,094	3,016	△ 78	3,039	2,973	△ 66	2,903

②資本的収支

(単位:百万円)

区分		21年度			22年度			23年度
		計画	実績	計画比	計画	予算	計画比	計画
資本的収入	1. 企業債	113	108	△ 5	177	77	△ 100	594
	2. 他会計繰入金	0	0	0	484	0	△ 484	490
	3. その他	0	0	0	0	7	7	0
	計 (A)	113	108	△ 5	661	84	△ 577	1,084
	(A)のうち翌年度に繰り越される支出の財源充当額 (B)	0	0	0	0	0	0	0
純計 (C)		113	108	△ 5	661	84	△ 577	1,084
資本的支出	1. 建設改良費	115	112	△ 3	177	79	△ 98	594
	2. 企業債償還金	920	920	0	968	967	△ 1	980
	3. その他	19	16	△ 3	0	0	0	0
	計 (D)	1,054	1,048	△ 6	1,145	1,046	△ 99	1,574
資本的収入額が資本的支出額に不足する額 (D)-(C) (E)		941	940	△ 1	484	962	478	490
補てん	1. 損益勘定留保資金	941	940	△ 1	484	962	478	490
	2. その他	0	0	0	0	0	0	0
	計 (F)	941	940	△ 1	484	962	478	490
補てん財源不足額 (E)-(F)		0	0	0	0	0	0	0
積立金現在高		0	0	0	0	0	0	0
企業債現在高		21,736	21,731	△ 5	20,945	20,841	△ 104	20,559

21年度の事業収益は、計画比0.7%の減となりました。
 診療収入のうち、入院部門では、病床利用率が計画値を下回り、入院収益は計画未達となりましたが、外来部門では、患者数及び診療単価が計画値を上回ったことで、外来収益は5.8%計画値を上回ることでとなりました。
 一方、支出は、諸経費の節減に努めたことにより、計画比0.7%の減となりました。
 これらの結果、事業収益と事業費用は同額となりました。

2 主要指標

区分	21年度			22年度			23年度
	計画	実績	計画比	計画	予算	計画比	計画
病床利用率(全体) (%)	77.6	70.1	△ 7.5	78.4	78.4	0.0	79.2
病床利用率(一般) (%)	80.0	72.8	△ 7.2	80.5	80.5	0.0	81.0
入院診療単価(一般) (円)	44,751	48,011	3,260	45,474	45,853	379	46,188
外来一日平均患者数 (人)	820	828	8	835	835	0	850
外来診療単価 (円)	7,769	8,135	366	7,769	7,921	152	7,769
経常収支比率 (%)	100.2	100.3	0.1	100.2	100.0	△ 0.2	100.2
医業収支比率 (%)	76.2	78.5	2.3	76.9	77.5	0.6	78.3
職員給与費比率 (%)	60.4	58.9	△ 1.5	59.3	59.5	0.2	58.1
平均在院日数(一般) (日)	11.2	10.7	△ 0.5	11.1	－	－	11.0

3 取組事項

(1)収入増加・確保

取組項目	21年度進捗
DPC(診断群分類)包括 評価支払の導入	21年度からDPC適用病院となり、従来の出来高方式による収入と比較し、年間104,466千円の増収となりました。
施設基準の届出の見直し	小児食物アレルギー負荷検査の施設基準等の施設基準を取得しました。
地域医療機関との機能分 担と連携強化	院長などが地域の医療機関に出向き、紹介患者や逆紹介などの機能分担に関する協力依頼などを行い、積極的に医師会等と連携強化を図りました。
未収金の縮減	クレジットカード決済の導入、推進により、未収金の発生予防に努めました。 また、引き続き臨戸徴収を実施し、未収金の回収強化に取り組みました。 21年度のクレジットカード利用率は、24.2%となっています。
使用料等の見直し	21年10月から、分べん料の引き上げを行い、10月から3月で、4,210千円の増収となりました。

※地域医療機関との機能分担と連携強化【目標値】

	H21			H22	H23
	計画	実績	計画比	計画	計画
紹介率	47.8%	47.4%	△ 0.4%	48.9%	50.0%
逆紹介率	26.6%	25.7%	△ 0.9%	28.2%	30.0%

(2)経費節減・抑制

取組項目	21年度進捗
SPD(物品管理システム) の導入及び拡充	新SPD(物品管理システム)を病院情報システムと連動させることにより、医療請求漏れの防止、材料費削減を図りました。導入効果額は、24,842千円となりました。
後発医薬品(ジェネリック 薬品)の使用の拡大	高額で使用量の多い医薬品をジェネリック医薬品へ切り替えることを重点的に取り組んだため、品目数比率では目標値を2.0ポイント下回ったものの、購入額比率は、10.5%と上昇しました。

※後発医薬品(ジェネリック薬品)の使用の拡大【目標値】

	H21			H22	H23
	計画	実績	計画比	計画	計画
品目数比率	10.2%	8.2%	△ 2.0%	12.7%	15.5%

(3)その他

取組項目	21年度進捗
臨床研修の実施	管理型・協力型の臨床研修病院として、21年度は12人(20年度から4人増)の卒後臨床研修医を受入れを行いました。また、後期臨床研修医も引き続き5人(20年度と同数)受入れました。
医師の待遇改善	医師の管理職範囲を見直し、救急など時間外の診療に対する評価を行うこととしました。 また、分べん業務手当を新設し、産科医の待遇改善を図りました。

(4)その他の取組み

取組事項	平成21年度進捗
循環器疾患への対応	心臓カテーテル診療を行う医師が採用となり、同診療が必要な患者を積極的に受入れました。心臓カテーテル診療の取扱件数は、20年度の3倍となりました。
市立病院相互の機能分担など 在り方の見直し (少数医師配置の診療科)	千葉県保健医療計画等を踏まえ、海浜病院との機能分担などを引き続き検討していきます。
小児医療(救急医療含む)での 市立病院間連携強化	海浜病院との間で宿直医師の相互応援を行いました。
緩和ケア病床の効率的活用	効果的な活用を推進し、緩和ケア対象患者は20年度に比べ増加となりました。
病院間のネットワーク化	両市立病院間のカルテ、画像等の相互参照化については、23年度以降の導入を検討しています。

【海浜病院】

4 収支計画

①収益的収支

(単位:百万円)

区分		21年度			22年度			23年度
		計画	実績	計画比	計画	予算	計画比	計画
収入	1. 医業収益	6,193	5,957	△ 236	6,304	6,362	58	6,390
	(1) 料金収入	5,538	5,453	△ 85	5,649	5,624	△ 25	5,734
	1 入院収益	4,097	3,884	△ 213	4,203	4,140	△ 63	4,283
	2 外来収益	1,441	1,569	128	1,446	1,484	38	1,451
	(2) その他	655	504	△ 151	655	738	83	655
	うち他会計負担金	580	434	△ 146	580	668	88	580
	2. 医業外収益	1,325	1,249	△ 76	1,328	1,120	△ 208	1,297
	(1) 他会計負担金・補助金	1,302	1,222	△ 80	1,310	1,088	△ 222	1,282
	(2) 国(県)補助金	6	4	△ 2	6	10	4	6
	(3) その他	17	23	6	12	22	10	9
経常収益 (A)		7,518	7,206	△ 312	7,632	7,482	△ 150	7,687
支出	1. 医業費用	7,408	7,102	△ 306	7,522	7,370	△ 152	7,575
	(1) 職員給与費	3,734	3,595	△ 139	3,801	3,732	△ 69	3,801
	(2) 材料費	1,361	1,303	△ 58	1,385	1,371	△ 14	1,406
	(3) 経費	1,931	1,827	△ 104	1,950	1,859	△ 91	1,970
	(4) 減価償却費	361	360	△ 1	365	360	△ 5	376
	(5) その他	22	17	△ 5	22	48	26	22
	2. 医業外費用	100	96	△ 4	100	106	6	102
	(1) 支払利息	40	35	△ 5	40	36	△ 4	42
	(2) その他	60	61	1	60	70	10	60
	経常費用 (B)	7,508	7,198	△ 310	7,622	7,476	△ 146	7,677
経常損益 (A)-(B) (C)		10	8	△ 2	10	6	△ 4	10
特別損益	1. 特別利益 (D)	0	1	1	0	1	1	0
	2. 特別損失 (E)	10	9	△ 1	10	7	△ 3	10
	特別損益 (D)-(E) (F)	△ 10	△ 8	2	△ 10	△ 6	4	△ 10
純損益 (C)+(F)		0	0	0	0	0	0	0
累積欠損金		△ 531	△ 531	0	△ 531	△ 531	0	△ 531
繰入金合計(再掲)		1,882	1,656	△ 226	1,890	1,756	△ 134	1,862

②資本的収支

区分		21年度			22年度			23年度
		計画	実績	計画比	計画	予算	計画比	計画
資本的収入	1. 企業債	350	342	△ 8	364	582	218	364
	2. 他会計繰入金	0	0	0	323	0	△ 323	333
	3. その他	0	0	0	0	0	0	0
	計 (A)	350	342	△ 8	687	582	△ 105	697
	(A)のうち翌年度に繰り越される支出の財源充当額 (B)	0	0	0	0	0	0	0
純計 (C)		350	342	△ 8	687	582	△ 105	697
資本的支出	1. 建設改良費	353	346	△ 7	353	584	231	353
	2. 企業債償還金	623	623	0	646	646	0	666
	3. その他	11	3	△ 8	11	18	7	11
	計 (D)	987	972	△ 15	1,010	1,248	238	1,030
資本的収入額が資本的支出額に不足する額 (D)-(C) (E)		637	630	△ 7	323	666	343	333
補てん	1. 損益勘定留保資金	637	630	△ 7	323	666	343	333
	2. その他	0	0	0	0	0	0	0
	計 (F)	637	630	△ 7	323	666	343	333
補てん財源不足額 (E)-(F)		0	0	0	0	0	0	0
積立金現在高		0	0	0	0	0	0	0
企業債現在高		2,569	2,561	△ 8	2,287	2,497	210	1,985

21年度の事業収益は、計画比4.1%の減となりました。
 診療収入のうち、入院部門では、病床利用率が計画値を下回り、入院収益は計画未達となりましたが、外来部門では、患者数が計画値を下回ったものの診療単価が計画値を上回ったことで、外来収益は8.9%計画値を上回ることとなりました。
 一方、支出は、材料費の節減に努めたことにより、計画比4.1%の減となりました。
 これらの結果、事業収益と事業費用は同額となりました。

5 主要指標

区分	21年度			22年度			23年度
	計画	実績	計画比	計画	予算	計画比	計画
病床利用率 (%)	80.0	72.7	△ 7.3	80.5	80.5	0.0	81.0
入院診療単価 (円)	46,389	48,627	2,238	47,500	46,816	△ 684	48,000
外来一日平均患者数 (人)	618	588	△ 30	618	618	0	618
外来診療単価 (円)	8,588	9,914	1,326	8,588	8,865	277	8,588
経常収支比率 (%)	100.1	100.1	0.0	100.1	100.1	0.0	100.1
医業収支比率 (%)	83.6	85.5	1.9	83.8	86.3	2.5	84.4
職員給与費比率 (%)	60.3	60.4	0.1	60.3	58.7	△ 1.6	59.4
平均在院日数 (日)	13.6	12.6	△ 1.0	13.6	－	－	13.6

6 取組事項

(1)収入増加・確保

取組項目	21年度進捗
DPC(診断群分類)包括 評価支払の導入	24年度からDPC準備病院としての参加を目指します。
施設基準の届出の見直し	外来化学療法加算1、検体検査管理加算の施設基準を取得しました。
地域医療機関との機能分 担と連携強化	公開カンファレンスの回数を増やすなど、積極的に医師会等と連携強化を図りました。
未収金の縮減	クレジットカード決済の導入、推進により、未収金の発生予防に努めました。 また、引き続き臨戸徴収を実施し、未収金の回収強化に取り組みました。 21年度のクレジットカード利用率は、23.0%となっています。
使用料等の見直し	21年10月から、分べん料の引き上げを行い、10月から3月で、6,560千円の増収となりました。

※地域医療機関との機能分担と連携強化【目標値】

	H21			H22	H23
	計画	実績	計画比	計画	計画
紹介率	34.0%	39.1%	5.1%	35.0%	36.0%
逆紹介率	31.0%	26.0%	△ 5.0%	32.0%	35.0%

(2)経費節減・抑制

取組項目	21年度進捗
SPD(物品管理システム) の導入及び拡充	引き続き導入の検討を行いました。また、より初期費用の小さい経費節減策として、診療材料経費削減支援業務委託を行い、16,656千円の経費節減を図りました。
後発医薬品(ジェネリック 薬品)の使用の拡大	高額で使用量の多い医薬品をジェネリック医薬品へ切り替えることを重点的に取り組み、品目数比率で目標値上回り、購入額比率も14.0%と上昇しました。

※後発医薬品(ジェネリック薬品)の使用の拡大【目標値】

	H21			H22	H23
	計画	実績	計画比	計画	計画
品目数比率	10.8%	12.7%	1.9%	13.3%	15.8%

(3)その他

取組項目	21年度進捗
臨床研修の実施	協力型の臨床研修病院として、21年度は4人(20年度と同数)の卒後臨床研修医を受入れを行いました。また、後期臨床研修医も引き続き2人(20年度と同数)受入れしました。
医師の待遇改善	医師の管理職範囲を見直し、救急など時間外の診療に対する評価を行うこととしました。 また、分べん業務手当を新設し、産科医の待遇改善を図りました。
クリニカルパスの推進	病院情報システムの導入により、クリニカルパスの推進を図りました。
外来待ち時間の短縮	5月から病院情報システムが導入されたことにより、病院内の滞在時間、特に会計待ち時間が改善されました。

(4)その他の取組み

取組事項	平成21年度進捗
地域周産期母子医療センターの設置	平成22年3月10日付で千葉県に対して、地域周産期母子医療センターの申請書を提出し、3月25日に千葉県周産期医療・保健協議会において諮問され、正式に平成22年5月1日より地域周産期母子医療センターとして認定されました。
循環器疾患への対応	平成21年10月から循環器内科医師を1名増員とし、診療体制の充実を図りました。
市立病院相互の機能分担など 在り方の見直し (少数医師配置の診療科)	千葉県保健医療計画等を踏まえ、青葉病院との機能分担などを引き続き検討していきます。
小児医療(救急医療含む)での 市立病院間連携強化	青葉病院との間で宿直医師の相互応援を行いました。
病院間のネットワーク化	両市立病院間のカルテ、画像等の相互参照化については、23年度以降の導入を検討しています。

7 経営形態の見直しについて

(1) 経営形態移行時期

平成23年4月1日

(2) 経営形態移行内容

地方公営企業法一部適用 → 地方公営企業法全部適用

(3) 病院事業管理者について

病院事業管理者を下記のとおり選任した。

① 選任者

氏 名	もりや ひでしげ 守屋 秀繁(69歳)
住 所	千葉県若葉区
現在の主な役職等	鹿島労災病院長 千葉大学名誉教授 横綱審議委員ほか
【主な経歴】	
昭和63年5月	千葉大学医学部整形外科教授就任
平成17年4月	千葉大学大学院医学薬学府長就任
平成19年3月	千葉大学定年退職
平成19年4月	独立行政法人労働者健康福祉機構 鹿島労災病院長就任 現在に至る

② 選任理由等

- ・医師であること
- ・病院経営に関する見識を有し、良質な医療の提供と経営のバランスを兼ね備えた者
- ・リーダーシップがとれ、市立病院改革プランを理解し推進する者
- ・本市の地域医療の状況を理解している者
- ・改革意欲とともに病院経営に関し経験豊かで、関係機関との調整能力に優れた者

(4) 今後のスケジュール

- ・千葉市病院事業の設置に関する条例の改正(H22.12月議会)
- ・全部適用に伴う組織等の決定(H23.1月頃)
- ・本部の整備(H23.1月～)
- ・関係条例の改正(H23.2月議会)